

第二回 ブラジル長期派遣中間報告書

宍戸日向子

[はじめに]

ブラジルに来てから4ヶ月が経過しました。

前報告させていただいた時よりも生活に慣れ、期末試験にも無事合格し、ブラジル人のフレンドリーな性格のおかげで交友関係の輪も広がって充実した日々を過ごしております。

この期間での留学生活について詳しくご報告させていただきます。

[大学での活動について]

11月に日本からの学生グループが来てESALQの施設内見学に同行させていただきました。一人では、自分が受ける授業が行われる建物、図書館、食堂と行く場所がパターン化してしまっていて、あまり広いキャンパス中を見て回る機会がありませんでしたが、城田先生のご案内によって行ったことがない棟や施設も見学させていただきました。

その中でも印象に残ったのは、昆虫研究室の敷地で飼育しているトゲのない蜂です。トゲのない蜂は人間や動物に対して攻撃的ではないためリスクなしに扱うことができ、生態系にとって重要なのだと分かりました。現在、約90%の種子植物は、受精とその結果である果物と種子の形成に十分な量の花粉の移動を動物に依存していること、また世界的に生産されている農作物のほとんどは授粉者の行動から利益が得られるのだというお話をお聞きして、農業と昆虫の関係の深さに気付きました。生産性をあげるにはこのような昆虫が必要不可欠で、持続可能な農業をする上でミツバチの重要性について議論することは最新の試みだそうです。

到着して3ヶ月目で、初めて農業を勉強しにきている他の日本人の学生と会う機会があったことも気持ちの切り替えになりました。また城田先生は日系のブラジル人の先生で、毎年日本からの学生を受け入れてくださっている先生で、私もいつも貴重なお話をさせていただいて大変お世話になっております。

授業は前報告させていただいた時と同じ、果物の生産と加工の授業を取っております。

11月下旬に2回目の実習があったのですが、グループになって品質調査をする授業で、2つのフルーツの缶詰の、1片の大きさ、傷の有無、汁の量、Ph、Brixなどを測定し、2つの商品を比べながら総合評価をする単純な作業でしたが、生活に身近な食品をじっくり分析し評価する機会はあるようでやったことがなく、興味深かったです。

また、座って授業受けているだけではなかなか多くの学生と話すことは難しいですが、このように協力作業がある実習のおかげで、話したことがなかった学生とも距離を縮められました。

また12月に入ってすぐに期末試験がありました。実は、10月にあった中間試験では、今よりもポルトガル語に苦戦しており、問題文を理解するのさえ困難に感じておりました。そして時間も足りず、5割を取ることもできませんでした。しかし、期末テストではより一層力を入れて、授業が終わった後に先生に質問をしたり、同じ授業を取っている友達と一緒に勉強をしました。また、他の留学生は翻訳のためにパソコンを使ってテストを受けていると聞き、私も教授にお願いしたところ特別に許可をいただき、無事合

格することができました。ブラジルでは、黙っていれば何も起きないので、意思を主張することが大事なのだということをよく感じました。

また所属している研究室でキャッサバイモの研究プロジェクトがありました。

日本ではキャッサバイモのでんぷん製品であるタピオカが有名ですが、ブラジルではキャッサバはタピオカ以外にもイモやファロファと呼ばれる粉としても沢山の料理に使われており、レストラン、家庭で提供されていたり、スナックも作られていてブラジル人の生活に欠かせない食材です。

キャッサバは熱帯気候や亜熱帯気候で育ち、乾燥に強く、土壌条件が厳しくても簡単に生産できます。生産性も高く大量に栽培することができるため、食料問題解決にも役立つと信じられています。

キャッサバには甘味種と苦味種があり、甘味種はそのまま食べることができますが、苦味種はシアン化合物という有害物質が含まれているため食用にするために処理をしなければなりません。

今回私はその毒抜き処理に関わらせていただきました。皮を剥き、約 10cm の塊になるように切って、洗浄し、茹でて、さらに水につけるという簡単な工程ですが、キャッサバイモの皮は分厚く硬いため、剥くことにも沢山時間がかかってしまいました。しかしこの工程を怠ってしまうと強烈な毒性により口にすれば死んでしまう可能性もあるため、気を抜かず取り組まなければなりません。

キャッサバイモを扱う機会は今までなかったので貴重な経験ができました。今回は処理をするところまでしかできませんでしたが、ブラジルでよく消費されているファロファなどへの加工についても学びたいです。

[生活について]

前報告したときはヘプブリカに住んでいるとお伝えしましたが最近同じ授業を受けている友人が住む学生寮へ移動しました。理由はいくつかありますが、私は夜に授業があるため大学から近い場所に住みたかったこと、そして好きな時間に就寝をするため、勉強に集中するために自分の部屋が必要だったことなどが主な理由です。

しかしヘプブリカで暮らさせていただけたおかげで、ブラジル人の生活を知れたり、パーティーや交流会などで友好関係を築くことができたり、言語も少しずつ上達したりと、本当に貴重な体験をさせていただけたので全く後悔はありません。

今住んでいる学生寮は、部屋は分かれています但し住人同士の仲は良く、居間やキッチンで共同で使っているため交流する機会は沢山あります。大学の行き来も楽になり勉強も前より集中してできるようになりました。

また 9 月からポルトガル語の授業を受け始めました。今年は比較的留学生が少ないようで基礎のポルトガル語の授業を受けている学生は私だけです。よってマンツーマンで教えていただいております。

前回は記述させていただいた言語の壁は、完璧には無くなっておらずまだまだ困難を感じる場面もありますが、最低限の日常会話は前よりもスムーズにできるようになり、授業中にでてくる専門用語も分かるようになりました。また大学内だけでなく、出かけた先にいるブラジル人や、入ったお店やレストラン

の店員さんなどとも、機会があれば積極的に話すようにしています。

一回聞いて分からなくても何回も繰り返し聞いたり、言いたい単語が分からなくても簡単な単語を使って連想してもらったりと、なんとかコミュニケーションをとっております。これからも根気強く学習していきます。

[これからの計画]

夏休みが始まり、1月12日から1月31日までニアグロさんで、2月3日から2月13日までトメアスーの日系農家の方のもとで実習させていただく予定があるので全力で実習に取り組みます。トメアスーでの実習が終わった後はベレンに三日間だけ滞在する予定で、アグロフォレストリーや移民の歴史について学びたいと考えております。

また二学期からの授業ではさらに理解が深められるようポルトガル語の学習にも力を抜かず上達していきます。

[おわりに]

ブラジルでの生活に慣れ始めてからの数ヶ月は、時間が経つのがとても早く、あっという間に一学期が終わってしまいました。夏休みは実習を沢山させていただけるためさらに早く感じるだろうと思います。残されている留学生生活を充実したものにできるようここを区切りにさらに気を引き締めていきます。

今でも連絡を取ってアドバイスをくださる先輩方や、国際協力センターの方々にはとても感謝しております。これからもよろしく願いいたします。